

# 第30回FMESシンポジウムルポ 「ビッグデータ利活用と価値創造」



川村 大伸 (筑波大学)

## 1. はじめに

2014年7月11日(金)、(財)日本科学技術連盟の千駄ヶ谷本部において、経営工学関連学会協議会(FMES)主催の第30回FMESシンポジウム「ビッグデータ利活用と価値創造」が開催された。台風8号の影響が心配されたが、当日は晴天に恵まれた。

最近では、書籍、雑誌、セミナーなど、あらゆるものの枕詞に「ビッグデータ」が置かれているように、非常に関心事の高いテーマであり、会場の講堂を埋め尽くさんばかりの100人を超える参加者が集まった(図1参照)。

## 2. 講演

FMES会長である成蹊大学の渡邊一衛氏の開催挨拶によりシンポジウムは始まった。FMESの設立の経緯を説明された後に、NHKで過去に放送されたビッグデータの特集を引き合いに出しながら、ビッグデータ活用の重要性を主張された。

4つの講演が行われ、その中の3つは実務者の講演であった。



図1 会場の様子

## 2.1 我が国におけるデータサイエンティストの現状と展望

統計数理研究所 丸山 宏氏

データサイエンティストとはどのような人材であり、どのように育てるべきかについてご講演いただいた。

シリコンバレーにおけるデータサイエンティストとは、「データプロダクト」を開発できる人材を指している。データプロダクトとは、データ分析を利用して何らかの価値を提供するコンピュータプログラムのことであるから、プログラミングに比重を置いた捉え方がなされていると解説があった。

日本におけるデータサイエンティストについては、統計検定試験の合格者のうち、企業に勤める方に依頼したアンケート調査、および企業・機関で「データサイエンティスト」と呼ばれている20名の方への聞き取り調査の結果についてご報告された。将来的にデータ分析の専門家になりたいと思っている人が多いことや、データ分析は個人の能力ではなく、組織の能力として認識すべきことについてご説明いただいた。どんなによりデータ分析結果を持っていたとしても、経営者がそれに基づき意思決定できなければ意味がないため、発注側のリテラシーが重要であるというご指摘は非常に興味深いものであった。

## 2.2 製造業におけるデータ・ドリブン分析の適用事例

(株)デンソー 吉野 陸氏

工業の分野においても大規模・高次元データを取り扱うようになってきた。このことから、従来のイベント・ドリブン分析ではなく、データ・ドリブン分析へ移行させるため、社内で取り組んでいる事例についてご報告いただいた。

具体的には、次元の呪いといった高次元データを扱う際の留意点を述べた後、社内教育で使用している演習課題を題材にし、罰則付き回帰lassoの適用などを

紹介しながら、解析の勘所について説明がなされた。データ数が多い場合に散布図を描くと真っ黒になることから、その場合には濃淡の散布図を描くとよいといったテクニカルな話も随所に挟まれていた。

質疑応答では、勉強するための参考文献の敷居が高く、レベルが中程度の文献は非常に不足しているといった課題が認識された。

### 2.3 ビッグデータとビジネス・アナリティクス

(株)NTTデータ数理システム 中川慶一郎氏  
NTTデータにおけるビッグデータの取り組みから始まり、ビッグデータ、ビッグデータ活用の発展、ビジネス・アナリティクスの新たな挑戦、進化するビジネス・アナリティクスという項目の順でご講演いただいた。

マーケティングの領域では、サービス・ドミナント・ロジックという概念が近年注目されているが、ビッグデータ活用によるビジネス変革では、1次活用（業務課題）だけではなく、2次活用（経営課題）まで関与することが重要であるという指摘は、サービス・ドミナント・ロジックの実践という点で大変勉強になった。

また、ビッグデータの価値は時間にあると主張され、5年ごとに実施されている国勢調査の周期が5年から3年に変わるだけでも価値があるという例え話は説得力があった。司会を務められていた慶應義塾大学の鈴木秀男氏も強く共感を示していた。

### 2.4 ロングテール時代における、サービスを高度化させるデータの活用

楽天(株) 森 正弥氏

日本は顧客も商品もロングテールであり、ネット販売の場合にはコアな趣味を持つ人のニーズも満たすことができるとして、1体300万円の甲冑、2億円の消防車、さらには10億2千万円のお城も販売されていることを紹介すると場内から笑いが起こっていた。

ユーザー情報を集めるのにはリスクとコストが高いことから、かなり有益な情報を得ることができ、誰とでも共有できる公開されている情報の分析をお勧めいただいた。新商品の発売時など、ユーザーデータがないときには、ニュースの情報を分析するとよいといったアドバイスをいただくこともできた。

最後には、ビッグデータに関連する話題としてしばしば取り上げられるプライバシーの問題についても触れ、企業が自らを律し、プライバシーを尊重する必要があると締めくくられた。

## 3. おわりに

閉会の挨拶は、日本品質管理学会の会長である中央大学の中條武志氏が行い、盛況のうちに幕を閉じた。

講演者の誰もが話し上手であり、内容も非常に充実していたため、あっという間に終了を迎えることになった。社会におけるビッグデータの波を感じることであり、各企業や団体が現在取り組んでいる事例について理解を深めるよい機会となった。